令和５年度も、校長室から日頃の「雑感」をお届けいたします。昨年度は沢山の生徒の皆さんに校長室に来ていただきお話を伺うことができました。今年度も、感想や談話等の内容を掲載させていただく予定ですので、ご笑覧いただけましたら幸いです。

One for all, All for one.　№30

R5. 6.1　「陸上競技部が全道に向け本格的に始動」

前期中間試験を終え、陸上競技部がいよいよ全道に向けて本格的に始動します。

５月の支部予選会では短距離、長距離ともに好タイムを叩きだし、多数の選手が全道出場権を得ました。今回は、各種目１位の栄誉に輝いた選手の皆さんから陸上競技部を代表して全道に向けた抱負等を伺いました。

男子 100m 優勝の３年生 安藤　辿君は「一瞬で勝負が決まる種目だけに、スタートラインに立つ前からゴールまでの全てのコンディション作りが難しいです。全道大会では万全な状態で駆け抜け、北海道高校記録を塗り替えたいです」と抱負を語ってくれました。

男子棒高跳優勝の 田中 倖仁君は入学まもない１年生、「中学２年の時に棒高跳びを専門とする顧問の先生との出会いからこの競技を始めました。高跳び独特の助走と空中での跳躍動作の精度をあげ、全道大会でも目標記録に向けてベストを尽くします」と、今後の練習で課題を克服し全道大会に挑戦します。

女子 800m と 1500m の２冠に輝いた 木田 美緒莉さんは、800m で大会記録を出すなど見事な走りを見せてくれました。「800 と 1500 では走り方も異なり、長い距離はスピードに加えて持久力も必要になります。今大会は自分のペースで走ることができました」と冷

静に分析するあたりはとても１年生とは思えません。今後の活躍が大いに楽しみです。
　女子棒高跳を制した２年生 岸　菜月さんは「棒高跳との出会いは小学生の時でしたが、幾度か競技から離れた時期もありました。それでもこの競技の楽しさを多くの人に知ってもらえればという想いから続けています。全道では助走に力点を置きながら、さらに記録を伸ばしたいです」と、フィールド競技の魅力を語ってくれました。
　女子走幅跳・三段跳で力強い跳躍を見せてくれた３年生 須藤 ひなたさんは、昨年に続いてのインターハイを目指します。「走り幅跳は思うように跳べましたが、三段跳では満足のいく記録が出ませんでした。助走のスピード、歩幅、跳躍のタイムミングなど今一度確認し、万全な状態にして全道大会に臨みます」と細かな調整にも余念がありません。
　ワン・ツー・スリーと本校が独占した女子 3000m で見事優勝した３年生 山本 望結さんは、全国の代表選手が集う「Ｕ２１」大会に参加するため現在大阪に赴いています。
　今回お話を聞けなかった選手の中にも実力者は大勢います。インターハイと同じ札幌を舞台に繰り広げられる全道大会に大注目です！

One for all, All for one.　No.31

R5. 6.1　「２名が優秀選手に選ばれました！」

　道北陸上競技協会が選考する「令和４年度優秀選手」に、本校陸上競技部から３年生の安藤　辿君と、同じく３年生の益塚　稀さんの２名が選ばれました。この賞は、記録はもちろんのこと、一年間を通して活躍した選手に贈られます。
　安藤君は短距離のエースとして、昨年度は「Ｕ １８」100m 全国大会で７位に入賞するなど、北海道を代表する選手にまで成長しました。また、100 メートルだけでなく、200m、リレーと他種目においての活躍も評価されました。
　益塚さんは、昨年度インターハイに出場したほか、年末の都大路全国駅伝大会では 1 年次から代表選手として参加するなど、トラック・ロードともに目覚ましい活躍が評価されました。
　陸上競技部を牽引しているこの二人の今年度の活躍からも目が離せません。
「優秀選手賞の受賞、本当におめでとうございます！」

One for all, All for one.　No.32

R5. 6.2　「女子剣道部、全道へ！」

　２５、２６両日、東光スポーツ公園「武道館」で行われた支部予選で、女子剣道部が団体戦３位に入賞し、釧路で開催される全道大会への切符を手にしました。
　これまで女子部員が少なく、どちらかというと男子にばかり目が行きがちでしたが、今大会では団体戦に加え、個人戦でも２名が入賞するなど女子の強さが際立ちました。
　３年生主将の 古市 彩恵さんは「基本を大切にした正統的スタイルがチームの特色です。個人的にはまだ課題もありますが、練習の成果も所々で発揮できたと思います」と、終始チームをまとめ、個人戦でも３位を勝ち取る見事な活躍を見せてくれました。
　剣道は中学生から始めたという副将の３年生 冨澤 碧琉さんは「監督から教えていただ

いたことを、皆でよく話し合い、形にしていくことが私たち剣道部の魅力でもあります」とチームの結束力の強さを伝えてくれました。

引き技を得意とする３年生の 木村 はなさんは「兄弟の影響で剣道を始めました。練習で辛いこともありますが、試合に勝ったときは素直に嬉しいです」と部活動での達成感を語ってくれました。

小学校低学年から既に竹刀を持っていた２年生の 松林 央倖さんと阿久津 妃菜さんは中堅学年として３年生を支えます。

個人でも全道出場権を得た 松林さんは「相手の動きに惑わされず、冷静な試合運びに徹したい」、また阿久津さんは「緊張から迷いが出てしまったところもあるので、全道では自信をもって打ち切るところまでいきたい」と抱負を語ってくれました。

唯一の１年生 鎌田 百羽さんは「優しい先輩方と年齢を越えたつながりの中で練習ができることがとても楽しいです。全道では悔いのない試合を心がけたい」と先輩方と気持ちを一つにする思いがよく伝わってきました。

皆仲が良く、とても清々しく微笑ましい女子剣道部の皆さん、怪我には十分注意して、万全な状態で全道大会に臨んでください。応援しています！

One for all, All for one.　№33

R5. 6.2　「音楽大行進」

今年も初夏の風物詩、そして全国でも最大級の規模の誇る「北海道音楽大行進」の季節が到来しました。

本番を翌日に控えた吹奏楽部の様子を見学に行きました。例年ですと学校前で行進を兼ねた練習を行うのですが、外は生憎の雨、小雨とは言え楽器には大敵です。やむなく廊下を使い、直前の仕上げに入っていました。

校内での演奏は外での音の響きとはまったく異なり、楽器特有の個別の迫力があります。

明日の天気も怪しい雲行きですが、何とか持ちこたえて、部員の皆さんの力強い演奏が多くの皆様に届くことを願うばかりです。

One for all, All for one.　№34

R5. 6. 5　「優秀賞受賞！」

過日、紹介しました吹奏楽部２年生の野原 桜生君が「関西音楽コンクール」から戻り、

結果報告のために校長室を訪れてくれました。

「次世代を担う若き演奏家の発掘」をコンセプトとする本コンクールには、各部門における秀でたプレーヤーが全国から集まります。

大阪芸術大学芸術劇場を会場に行われた打楽器部門で、野原君は普段どおりの演奏で審査員や観客を魅了、見事「優秀賞」に輝きました。

毎年部門ごとでも活躍の場を広げている吹奏楽部、定期演奏会や音楽大行進のような全体演奏の素晴らしさの根底には、こうした個々のスキルアップが影響しているのですね。

One for all, All for one.　No.35

R5. 6. 7　「こちらも優秀賞！」

全国高校生大作書道展で「優秀賞（全国第４位）」に選ばれた３年生 橋本 拓磨君に話を伺うことができました。このコンクールは通常より大き紙に書かれた作品を対象としており、例年全国から 200 点近くの応募があります。

今回の作品は「孫秋生造像記」の臨書です。「この古典の魅力は、鋭さと力強さです。同じ文字にも異なる表情があり、その違いを表現するのが難しかったです」と言います。

橋本君は、アットホーム的な書道部の雰囲気に魅かれ、高校から本格的に書を始め、わずか２年余りで全国の頂点に並ぶ作品を書き上げました。「当初はぎこちない筆遣いでしたが、使い慣れれてくると表現の幅も拡がり、自分の思うような作品に仕上がった時などはとても楽しく感じます」と書の魅力を語ります。

「合同合宿などで培ったコミュニケーション力を今後も生かし、さらに視野を広げていきたいと思います」と、終始寛容で誠実な態度をもって応えてくれました。

One for all, All for one.　No.36

R5. 6. 7　「新ポスターが完成」

令和６年度入学生案内用のポスターが完成しました。本校独自のキャラクターと「創り出そう次世代の龍谷　君の未来は君の手で」のテーマを前面に打ち出した作りになっています。

生徒が考案したテーマは、移転に伴い、これまでの伝統を基盤に新たな伝統を踏み出した「新生龍谷」に相応しいキャッチフレーズになっています。また、中央の「龍谷」の文字は、本校書道部員の心のこもった重厚な書体で仕上げられました。

中学生の皆さんにも共感してもらえると嬉しく思います。

One for all, All for one.　No.37

R5. 6. 7　「気品と優雅さ」

放課後、明るく清々しい茶華道部の皆さんが校長室に生け花を飾り付けに来てくれまし

た。部員は現在７名で、顧問の先生に加えて外部指導者にも来ていただくなど本格的な活動を続けています。茶道は表千家、華道は池坊の作法を身に付けているだけあって部員の皆さんの所作にも、とても落ち着きを感じます。

作品は、校内の様々な場所に馴染むように配置され、来校者や在校生の目を楽しませてくれます。校長室に飾られた作品も、訪問者にいつも絶賛されるほど素晴らしい出来栄えで、鑑賞される人の心を和ませてくれます。

花そのものの美しさにも心魅かれますが、造形から醸し出される気品や優雅さは感動の一言です。

One for all, All for one.　№38

R5. 6.13　「開校記念日」

明日は本校の開校記念日になります。５月の連休あたりに設定している学校が多い中、この日を記念日としたのには次のような経緯があります。

本校の創始者慶誠寺第三世住職は、現在の理事長の祖父にあたる石田学而氏です。昭和３３年４月に本校を開校して以来、「人柄の龍谷」として多くの卒業生を輩出してきました。

開校記念日を定められたのは昭和３５年のことです。

石田学而氏のご尊父でいらっしゃる石田慶封師が遷化されたのが昭和２７年１月１３日。その遺徳を偲んで１３日と、ご母堂が愛でられた花々が美しく咲く季節６月とを組み合わせて、６月１３日を開校記念日と定めました。

開校記念日を通して縁のある方々に心を偲ばせ、自らが生かされていること、そして、その命を大切にしなければならないことを実感しましょう。

One for all, All for one.　№39

R5. 6.14　「崇徳中学校」

本校と同じ「龍谷総合学園グループ」に属する広島の崇徳中学校の皆さん３５名が、見学旅行の行程の一環として本校を訪ねてくれました。

例年は海外研修を実施しているそうですが、コロナ禍に加え、混乱する社会情勢の中での燃料高騰なども相まって、急遽北海道への見学旅行に切り替えたとのことでした。

中学生の皆さんは、総合的な探究の時間を通して学んだ広島の歴史、文化、風土などをわかりやすくまとめ、本校生徒に紹介を兼ねたプレゼンを行います。

本校生徒はそのプレゼンを見聞きし、先輩として気づいたことを中学生の皆さんに率直に伝えていきます。

年齢差は異なっても近い感性を持つ両者だけに、様々な形でのコミュニケーションにより、互いに多くのことを感得してきます。

今回の交流はとても新鮮で貴重な機会となりました。

崇徳中学の皆さんは、この後、旭山動物園を経由し、富良野、札幌などを見学して帰校するとのことす。

広島とはまた異なる北海道特有の魅力を肌で感じて持ち帰ってくれると嬉しいですね。

One for all, All for one.　№40

R5. 6.18　「まちなかキャンパス」

今年も SDG s と深く関わりを持つ教育機関、行政機関、民間企業等の取組が「まちなか賑わいストリート」の各エリアで披露され、多くの市民の注目を集めました。

世代を超えて様々な課題を共に考えたり、地元の良さに改めて触れたり、体験から新しい発見を見出したりと、誰もが豊かで生き生きとした生活を送れるようにと考案された市の象徴的イベントの一つです。

本校郷土部も「アイヌ文化体験」と題して、市民の皆様にアイヌの伝統楽器「ムックリ」の作製と演奏手法をお伝えさせていただきました。

郷土部は本校を代表する伝統と実績ある部活動の一つです。より多くの生徒の皆さんに、こうした取組を通して深い感動を体感して欲しいと思っています。新しい部室も開設しました。1 年生の皆さんも是非一緒に活動してみませんか。

One for all, All for one.　№41

R5. 6.19　「追悼会」

全校生徒による追悼会を執り行いました。各々が故人となられた方々のご遺徳を偲び、心から追悼の意を表する行事です。同時に、「生死の問題」について思いを致し「積極的な生き方」を模索する機会にもしています。

厳粛な中、この一年の間に故人となられた方々と深い関係にある生徒の皆さんに、代表して壇上でのご焼香をしていただきました。

法話では、宗教担当の藤島 裕明教諭から、思いがけない人との出会い、運命的な鉢合わせ、積極的に生きることの大切さなどについてお話がありました。

One for all, All for one.　№42

R5. 6.19　「教育実習」

今年もフレッシュな教育実習生が来校してくれました。皆さん本校の卒業生で、現在は大学４年に在籍しています。

天理大学在籍の遠藤 康介先生は、３週間にわたり保健体育を担当されます。「単調にならないようメリハリをつけ、生徒が楽しいと思える授業を心がけたいです」と抱負を語ってくれました。遠藤先生は高校時代、柔道でインターハイへの出場経験を持つ実力者です。部活動でも後輩たちに切れのある技を是非伝授していってください。

室蘭工業大学在籍の小柳 大地先生は、数学を２週間担当されます。在学時は吹奏楽部の要としてアルトサックスを演奏されていました。「当時は苦労もありましたが、３年間龍谷高校で学ぶことができて本当に良かったです。生徒たちにもその思いを伝えていければと思います」と、文武両道を成し遂げた高校時代の充実した生活を想像させてくれました。

同じく室蘭工業大学在籍の山本 竜之介先生は、理科（物理）を２週間担当されます。「物理というと身構える生徒も多いですが、日常生活に密接に関係していることを伝え、興味関心を持ってもらえればと思います」と話してくれました。山本先生は在学中野球部のエースとして全道にも出場しています。後輩へのアドバイスも是非お願いします。

明朗快活で礼節の備わった素晴らしい先生方ばかりです。在校生には、３名の先生方を身近な目標として、学習、部活動に一層頑張ってくれることを期待しています。

One for all, All for one.　№43

R5. 6.21　「交通安全教室」

昨年度の校舎移転に伴い、登下校の際の交通事情が大きく変わりました。街中を徒歩や自転車に載る際の交通安全について今一度学校全体で再確認しました。

加害者側の一方的な過失だけはどうすることもできませんが、生徒自らが日常的に安全意識を高く持つことで、事前に危険を察知し事故を回避することはできます。

また、自転車運転のマナーを守ることは、自分の身を守るだけでなく、逆に自分が加害者になることを防ぎます。特に最近は、中高校生による「ながら」運転による事故が多発しています。「スマホを見ながら、よそ見をしながら、並走しながら、傘をさしながら、飲食しながら」など、ちょっとした油断が取り返しのつかない事故を引き起こします。

このたびは、東警察署、クミアイ自動車学校、防災安全部交通安全課の皆様のご協力で、実験映像等を交えてのご講義を行っていただきました。

最後に１年生の北村 有梨さんと生徒会長の３年生 元山　唯さんが「交通安全宣言」を読み上げ、全校生徒で交通安全を心がけることを誓いました。

One for all, All for one.　№44

R5. 6.22　「進路ガイダンス」

２、３年生を対象に、体育館・格技場を使い進路ガイダンスを開催しました。

９０以上の国公立大学・私立大学・専門学校・大手企業が一堂に会し、生徒たちが興味関心のあるブースで概要説明や進路相談を受けます。

本校では、こうしたガイダンスを適切な時期に計画的・系統的に行っていますが、中でも最大規模となるこのイベントは、進路を決定する上で欠かせない行事となっています。

パンフレットや各種資料からも内容を調べることはできますが、関係者から詳細を直に聞くことで進路希望は大きく変わります。

今後は保護者を交えた三者面談も予定しています。将来を左右する進路を真剣に考え、その実現に向けて、今やるべき事に集中してくれることを願っています。

One for all, All for one.　№45

R5. 6.23　「避難訓練」

防災の日に合わせ、火災を想定した避難訓練を実施しました。４階からの出火を想定し全学年が１階に避難してきます。限られたスペースの中で混乱なく避難場所に集合できるか一抹の不安もありましたが、生徒は教科担任の指示に従い速やかに避難行動をとるなど、杞憂に終わりました。

予め決められていた避難経路も守られ、狭い廊下ではありましたが列を崩すことなく避難場所に急ぐ姿が見受けられました。目立つ私語もなく、しっかりとした避難行動であったと思います。

旭川市消防署の方からのご講評では、火だけではなく煙の恐ろしさや、暗い中での冷静沈着な行動の重要性、訓練で学ぶ適切な判断力の大切さなどについてお話がありました。

同時に、避難訓練を実際に行う中でいくつかの改善点も見つかりました。学校の構造を考えた効率的な避難経路や周囲を見極めた冷静な判断など、私たち教職員も生徒の安全を第一とする避難対策の強化に引き続き努めていかなければならないことを痛感しています。

いつどこにいても適切な判断や行動ができるよう、生徒だけなく教職員も共に学び身につけていきます。

One for all, All for one.　№46

R5. 6.23　「合唱部が最優秀賞！」

２２日に行われた高文連音楽発表大会で、合唱部が昨年度に続き、見事「最優秀賞」に輝きました。連覇を成し遂げ、秋の全道大会出場の切符を手にした喜びの声を伺いました。

今回の自由曲は、谷川俊太郎氏作詞の「そのあと」。この曲を提案した３年生部長の井出 羽波君は「本校の合唱部が得意とするのは、静かで流れるような曲想の中にも壮大なロマンが拡がる曲です。練習では一つ一つの言葉を大切にしながら丁寧に歌いこみました」と、この発表大会にかける並々ならぬ思いが伝わってきました。

副部長の３年生 高橋 ひなたさんは「連覇をするには昨年よりさらに磨きをかけなければなりません。練習では細かな音の確認にも力点を置き、昼練習のわずかな時間にも集中力を欠かさないように心がけました」と、練習だけでなく、日常生活でも部員一人一人に寄り添う頼りがいのある大きな存在感を感じます。

同じく副部長の３年生 菅野 結太君は「昨年との大きな違いは、ステージを降りたら終わりではなく、反省会を持ち課題を明確にすることで、次のステージまでに克服するという意識が部として芽生えたことです」と話してくれました。王者としての風格をも感じさせてくれます。

本校の合唱部の魅力は、メリハリがあることだと言います。「ステージや練習中は集中を切らさず真摯に曲と向き合いますが、練習から離れた時は皆リラックスして話ができるアットホームな部です」との言葉からも、とても充実した高校生活が伺えます。

One for all, All for one.　№47

R5. 6.24　「学校説明会」

今年最初となる中学生・保護者向けの学校説明会を本校体育館で実施しました。時節柄お忙しい中、沢山の生徒の皆さんと保護者の方に足を運んでいただきました。心よりお礼申し上げます。

昨年夏の移転からちょうど１年が経ちました。地域の皆様方にも徐々に溶け込み、様々な場面で応援をしていただいています。

昨年の今頃は旧校舎への愛着からか離れがたい思いも沸き起こりましたが、今となっては教師、生徒ともに新校舎に馴染んできた感があります。落ち着いた学習環境、最先端の ICT 機器、部活動に適した広大な敷地の中で、生徒も充実した生活を送っています。

中学生の皆さんには、そんな高校生活の一端をビデオや資料等を通して知っていただき、龍谷高校の魅力を少しでも感じていただけたら嬉しく思います。

また、本校独自の特待生制度、就学支援制度、さらには昨年から始めた Web 出願等にについてもご説明させていただきました。

今後も多様な入試イベントを予定しています。是非とも多くの皆様に参加していただき、「新生龍谷」に触れていただければと願っています。

One for all, All for one.　№48

R5. 6.27　「柔道部、全国大会へ！」

南北それぞれから代表が出ていた時代も４年前には全道枠に統合され、それ以来札幌を中心とする強豪校に苦汁をなめてきた柔道部が、ついに団体戦でインターハイ出場をもぎ取りました。

今年のインターハイは北海道開催（柔道競技は札幌）といこともあり、選手たちはこの大会に合わせ計画的に厳しい練習をこなし課題を克服してきました。

主将の２年生 箕浦 裕斗君は「全国大会出場を決まられたことは素直に嬉しいですが、僕たちの目標はあくまでも全国制覇。勝つために必要なことは何かを各々がしっかりと考え、強く自覚しこれからの練習に生かしていきます」と、全国大会にかける気迫のこもる思いがひしと伝わってきました。

箕浦君とともにチームをまとめる副将の３年生 阿部 柊希君は「今大会の収穫は、選手権敗退後に各自が相手の研究と課題克服に真摯に取り組み、どんな状況にあっても自分の役割を必ず成し遂げるという強い思いで戦えたことです」と、今大会の成果について分析してくれました。

個人戦でも３位を手にした３年生 西田 拓未君は決して試合に満足はしてしていません。「団体戦では集中力を切らさず最後まで気持ちを前面に出し切ることができましたが、個人戦では気持ちの弱さが出てしまい、練習の成果を十分に出し切ることができませんでした。全国大会に向け今一度気持ちを切り替え、強い精神力をもって臨めるよう努めます」と自己への厳しさを貫く姿勢を見せてくれました。

寝技を得意とする３年生 小滝 航二朗君は「自分は先鋒を務め、チームを盛り上げることが役割でした。取り切らなけらばならない試合で引き分けに終わるなど悔いも残りますが、これまで続けてきた寝技で一本を決める試合もあり自信になりました」と、チームのために戦う責任感の強さがよく伝わってきました。

１年生ながら全道大会という大きな舞台を経験をした 小幡 斗吾君は「最初は緊張し、手足も思うように動きませんでしたが、徐々にイメージどおりの組み手や試合展開が出来

るようになりました。次の大会では最初から冷静に自分の形になれるようを努めす」と、１年生とは思えないスケールの大きさを感じます。

８月の全国大会に向け「柔道部員全員が大会メンバーを目指し切磋琢磨する中で、チーム全体の底上げを図ります。充実した取り組みがチームの雰囲気を良くし、意識をさらに高揚させていくものと考えます。個々のスキルアップはもちろんですが、皆がチームの一員として自分の役割を果たせるよう、さらに結束を固めて行きます」と、主将と副将から頼もしい抱負を聞くことができました。

体育系部活動の中でも特に礼儀正しく、練習熱心な柔道部の皆さんの益々の活躍に期待が膨らみます。

One for all, All for one.　№49

R5. 6.28　「研究授業」

教育実習に来ている小柳 大地先生と山本 竜之介先生（ともに室蘭工業大学４年生）の研究授業がありましたので参観してきました。

実習が始まりまだ１週間程度ですが、お二人とも落ち着いた態度で授業をしているのを見て驚きました。生徒との適切なやり取りを交えながら、大変わかりやすい授業を展開していました。

「教える」こと自体の難しさもありますが、発問により、教師と生徒が、また生徒同士が双方向にやり取りしながら理解を深めてさせていくことは、けっして容易なことではありません。

教科指導に当たられた先生方のご助言もあったことと思いますが、教師としての資質を十分に感じさせる研究授業に、改めて本校ＯＢの底力を感じました。

One for all, All for one.　№50

R5. 6.28　「トラック・フィールドともに全国！」

陸上競技部から沢山のインターハイ出場選手が誕生しました。その中から代表して数名の選手に話を伺うことができました。

１年生の木田 美緒莉さんは「厚別競技場は始めてのトラックでしたので難しい部分もありましたが、当初の目標は達成できたと思います。全国では自己ベストを狙っていきます」と力強い抱負を語ってくれました。

同じく１年生の合田 安伽梨さんは「余力を残し後半に攻めていくのが自分の持ち味です。全国までに十分なスタミナをつけていきます」と今後の課題克服にも余念がありません。

二人はともに１年生ですが、ベストコンディションで走れるよう常に自分と真摯に向き合い、新たな目標に向けて練習に取り組もうとする姿勢には感服します。

リレーの３年生 柳瀬 拓真君は「200m で１年ぶりに自己ベストが出せたことが嬉しいです。リレーでは仲間を信じ、気持ちを一つにして最後まで気合を入れて走ります」と、チームのムードメーカとしての大役を担ってくれます。

同じく３年生の門脇 遥空君は「リレーの難しさは呼吸を合わせ、ベストタイミングでバトンをつなぐことです。全国大会まで良い雰囲気を保ちながら、４名の結束をさらに強めていきます」と、チームプレーの難しさと楽しさの両面を教えてくれました。

唯一２年生の高橋 誠至君は「先輩たちの足を引っ張らないよう必死です。大会ではスタートを任され緊張もしましたが、それを自分の力に変え、最高のタイミングで先輩につなぐことだけを考えて走りました」と、改めてこのチームの信頼関係の強さを感じさせます。

800m の３年生 二色 悠楽さんは「昨年、インターハイを逃した悔しさから、今年こそはという強い気持ちで大会に臨みました。イメージ通りの走りができ自己ベストにつなげられたことは素直に嬉しいです。全国では自己ベストを再度更新したいです」と、抱負を語ってくれました。

1500m で自己ベストを出した３年生 本田 愛咲緋さんは「怪我に苦しんだ時期もありましたが、今回最高の走りができて嬉しかったです。全国大会は地元開催ですので、顧問の先生や声援してくれた人たちへの思いに応えられる走りがしたいです」と、支えてくれた方々への感謝の気持ちも忘れません。

いつもアットホームな雰囲気の陸上競技部。厳しい練習の中で培った素晴らしい人間性が、周囲の人の気持ちも明るく照らしてくれます。

【インターハイ出場選手】※敬称略

■男子 100m	安藤　　辿③
■男子 4 × 400m	安藤　　辿③　柳瀬　拓真③　門脇　遥空③　佐藤　青春③ 高橋　誠至②　浅倉　悠大②　佐々木叶夢②
■男子棒高跳	田中　倖仁①
■女子 800m	二色　悠楽③　木田美緒莉①
■女子 1500m	本田愛咲緋③　合田安伽梨①　木田美緒莉①
■女子 3000m	中野　芽衣③　山本　望結③　益塚　　稀③
■女子棒高跳	岸　　菜月②
■女子走幅跳	須藤ひなた③

関係各位、並びに地域の皆様方には、いつも多大なるご支援をいただいておりますことに、この場をお借りし厚く御礼申し上げます。このたび柔道部と陸上競技部がインターハイ出場を決めました。引き続きご声援いただきますようお願い申し上げます。

One for all, All for one.　№51

R5. 6.28　「校内進路ガイダンス」

２年生を対象に進路ガイダンスを実施しました。進路目標を明確にしていかなけらばならないこの時期、どのような道筋があり、何をどう選択していけばよいのかを知ることは極めて重要です。

今回は、大学、専門学校、看護、公務員の４講座を設け、各々の特色や試験や資格をクリアーするまでの流れ、学部や学科、職種を選ぶポイントなどについて、専門の講師陣を招いて説明していただきました。

時代の変遷とともに進路の道筋は多岐に渡り、学ぶ内容も多様化しています。まずはその概要を理解し、興味・関心、適性に合うものを見出すことで、目標とする道筋が徐々に明確になっていきます。その意味において、この時期が将来を決めるといっても過言ではないのかもしれません。

One for all, All for one.　№52

R5. 6.29　「全校応援」

高野連夏季支部予選が始まり、全校をあげて準決勝の応援に行ってきました。現３年生はコロナ禍の影響で思うような練習ができず、苦悩の日々を送った世代です。どのチームも同じ苦境を味わっただけに、全ての３年生の今大会にかける思いには例年以上のものがあったことでしょう。

試合は手に汗握る投手戦となりましたが、延長戦の末、惜敗してしまいました。引退となる３年生には、野球を通して培ってきた人間性を今後の高校生活に生かして欲しいと思います。

スポーツには「勝ち負け」がつきものですが、より大切なのはそれを終えた後の生き方だと思います。数々の貴重な経験はその後の人生を豊かにし、それを共にしてきた信頼できる沢山の仲間は生涯の宝物です。